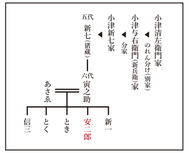
小津安二郎 年表



1903年 12月12日、東京市深川区亀住町（現・深川1丁目）肥料問屋「浦浅屋」の支配人である父・小津寅之助と母・あさ乃の次男として生まれる。両親はともに三重県出身。

1910年 東京市深川区立明治尋常小学校（現・江東区立明治小学校）に入学。

1913年 飯南郡神戸村垣鼻（かいばな）785番地（現・松阪市愛宕町2丁目）に一家転居。松阪町立第二尋常小学校1年に編入。

1916年 三重県立第四中学校（在学中に宇治山田中学校と改称、現・宇治山田高校）に入学。寄宿舎に入る。

1920年 7月「蜘蛛（ちご）事件」発生。事件にまきこまれ停学処分を受け、寄宿舎を追放される。学校の監視から遠くなり、映画への傾斜が強まる。

1921年 宇治山田中学卒業。神戸高商（現・神戸大学）、名古屋高商（現・名古屋大学）を受験するも落ちる。受験中も映画を観て歩く。

1922年 三重県飯南郡宮前尋常高等小学校（現在、松阪市飯高町にある宮前小学校）の代用教員となり、5年生男子組を担任。

1923年 代用教員を終え、東京深川区勘倉町（現・深川2丁目）に帰り、一家合流。本社、松竹キネマ蒲田撮影所に撮影部助手として入社。

1932年 「キネマ旬報」でベストワンの評価を取得（「生れてはみたけれど」）。

1937年 9月応召、中国各地を転戦。

1953年 「東京物語」撮影。

1959年 映画人初の芸術院賞受賞。
8月「浮草」撮影。志摩ロケを行う。

1962年 映画界初の芸術院会員に選ばれる。

1963年 12月12日、東京医科歯科大学附属病院にて死去。満60歳。

主な代表作品

生れてはみたけれど 1932年

浮草物語 1934年

父ありき 1942年

麦秋 1951年

お茶漬の味 1952年

東京物語 1953年

早春 1956年

彼岸花 1958年

お早よう 1959年

秋刀魚の味 1962年

小津安二郎松阪記念館
（松阪市立歴史民俗資料館 2階）

小津安二郎が青春を過ごしたまち松阪
その偉業を映像やパネル、資料でご紹介

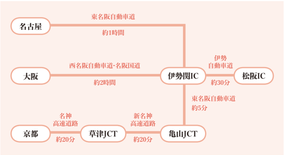
日本映画はもとより、世界的な名匠として名高い小津安二郎は、「子どもは環境のいい郷里で育てたい」という父の考えにより、9歳から19歳までの青春期を松阪で過ごしました。

当時は「飯南郡図書館」であったここ歴史民俗資料館へも幾度も通っていたことから、2階展示室を「小津安二郎松阪記念館」とし、彼のルーツから松阪での様子、映画との出会い、代用教員時代や生涯の友人との交流などを中心に展示を行っています。

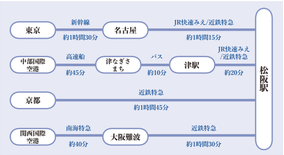
住所	〒515-0073　三重県松阪市殿町 1539 番地
電話	0598-23-2381
営業時間	9:00 ～ 16:30　（10 月～ 3 月は 16:00 まで）
休館日	月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、 年末年始 ※展示替えで臨時休館することもあります。
入場料	【個人】一般 110 円　/　6 歳以上 18 歳以下 50 円 【団体（20 名以上）】一般 80 円　/　6 歳以上 18 歳以下 30 円 共通券 ※共通券は「原田二郎旧宅」との共通入館券となります。 【個人】一般 80 円　/　6 歳以上 18 歳以下 40 円 【団体（20 名以上）】一般 60 円　/　6 歳以上 18 歳以下 20 円 《豪商のまち松阪 3 館共通入館券》 ※「旧長谷川治郎兵衛家」・「旧小津清左衛門家」・「松阪市立歴史民俗資料館」 【個人】一般 500 円　/　6 歳以上 18 歳以下 250 円 【団体（20 名以上）】一般 400 円　/　6 歳以上 18 歳以下 200 円 ※障害者手帳をお持ちの方は、入館料が無料になります。 受付で直接、障害者手帳をお見せください。

松阪市へのアクセス

■車でお越しの場合



■航空機・列車でお越しの場合



発行：松阪市・文化課　写真提供：松竹（株）
〒515-8515　三重県松阪市殿町1340番地1
TEL 0598-53-4397　FAX 0598-22-0003

映画監督 小津安二郎　青春のまち 松阪
https://matsusaka-info.jp/ozu/

映画監督 小津安二郎

小津安二郎の面影を追う

“青春のまち 松阪”
ゆかりの地 21カ所巡り

About YASUJIRO OZU

日本映画の至宝かつ世界的な映画監督

日本映画の至宝といわれ、世界的名匠としても名高い、映画監督・小津安二郎。

「晩春」「麦秋」「東京物語」といった名作を次々に発表し、中流家庭を舞台に親子の関係や人生の機微を描き、独自のローアングルの手法を磨き上げ、いわゆる“小津調”は、世界の監督たちにも大きな影響を与え続けています。

明治36年（1903年）東京市深川区（現・東京都江東区深川）に生まれた安二郎は、大正2年（1913年）に父の故郷である三重県飯南郡神戸村（現・三重県松阪市）に移り住み、多感な思春期を松阪で過ごします。松阪は安二郎の青春のまちであり、映画への情熱を培った場所です。

そんな松阪にある小津安二郎ゆかりの地と実際の資料が展示されている小津安二郎松阪記念館（松阪市立歴史民俗資料館 2階）を通して、映画監督・小津安二郎のルーツや思い出に触れてみませんか。